

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】平成 18 年 7 月 20 日 (2006.7.20)

【公表番号】特表 2005-528957 (P2005-528957A)

【公表日】平成 17 年 9 月 29 日 (2005.9.29)

【年通号数】公開・登録公報 2005-038

【出願番号】特願 2004-510864 (P2004-510864)

【国際特許分類】

A 6 1 F 9/007 (2006.01)

【F I】

A 6 1 F 9/00 5 2 0

【手続補正書】

【提出日】平成 18 年 6 月 2 日 (2006.6.2)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

水晶体乳化システムと共に用いるための吸引チューブにおいて、

第 1 端および第 2 端を有し、かつ該第 1 端と第 2 端との間に延在する内腔を形成する内面を有する一定長さのチューブを備え、

前記内面は、前記内腔を通る流体の流れに対する抵抗を高める前記内腔と連通する複数の凹部または隆起をさらに画成していることを特徴とする吸引チューブ。

【請求項 2】

前記凹部または隆起は、前記第 1 端と前記第 2 端との間において前記内面の全長に沿って配置されていることを特徴とする、請求項 1 に記載の吸引チューブ。

【請求項 3】

前記凹部または隆起は、前記チューブの長さの 1 つ以上の区分に沿って配置されていることを特徴とする、請求項 1 に記載の吸引チューブ。

【請求項 4】

前記凹部は、螺旋襞を形成していることを特徴とする、請求項 1 に記載の吸引チューブ。

【請求項 5】

前記隆起は、螺旋状に配列される環状の隆線を形成していることを特徴とする、請求項 1 に記載の吸引チューブ。

【請求項 6】

前記凹部または隆起は、前記内腔の周囲に沿って規則的な間隔で離間されていることを特徴とする、請求項 1 に記載の吸引チューブ。

【請求項 7】

前記吸引チューブを水晶体乳化システムに直列に連結するために、前記第 1 端および前記第 2 端に配置されるアダプターをさらに備えていることを特徴とする、請求項 1 に記載の吸引チューブ。

【請求項 8】

水晶体乳化システムと共に用いる吸引チューブにおいて、

第 1 端および第 2 端を有し、かつ該第 1 端と第 2 端との間に延在する内腔を形成する内面を有する一定長さのチューブと、

前記内面の近くにおける層流の形成を阻止し、前記内腔を通る流体の流れに対する抵抗を高めるために、前記内腔内に配置される自在に移動する物体とを備えていることを特徴とする吸引チューブ。

【請求項 9】

前記自在に移動する物体は、羽根またはプロペラであることを特徴とする、請求項 8 に記載の吸引チューブ。

【請求項 10】

前記吸引チューブを水晶体乳化システムに直列に連結するために、前記第 1 端および前記第 2 端に配置されるアダプターをさらに備えていることを特徴とする、請求項 8 に記載の吸引チューブ。

【請求項 11】

水晶体乳化システムと共に用いる装置において、

第 1 端および第 2 端を有し、かつ該第 1 端と第 2 端との間に延在する内腔を形成する内面を有する一定長さのチューブを備え、

前記一定長さのチューブは、前記内腔を通る流体の流れに対する抵抗を高めるために、その内面に形成される特徴部を備えていることを特徴とする装置。

【請求項 12】

前記特徴部は、前記一定長さのチューブの内面に形成される凹部であることを特徴とする、請求項 11 に記載の装置。

【請求項 13】

前記凹部は、螺旋襞を形成していることを特徴とする、請求項 12 に記載の装置。

【請求項 14】

前記特徴部は、前記内腔内において内方に突出する隆起であることを特徴とする、請求項 11 に記載の装置。

【請求項 15】

前記隆起は、螺旋状に配置される環状隆線を形成していることを特徴とする、請求項 14 に記載の装置。

【請求項 16】

前記特徴部は、前記内腔の周囲に沿って規則的な間隔で離間されていることを特徴とする、請求項 11 に記載の装置。

【請求項 17】

前記一定長さのチューブを水晶体乳化システムに直列に連結するために、前記第 1 端および前記第 2 端に配置されるアダプターをさらに備えていることを特徴とする、請求項 11 に記載の装置。

【請求項 18】

水晶体乳化システムと共に用いる装置において、

第 1 端および第 2 端を有し、かつ該第 1 端と第 2 端との間に延在する内腔を形成する内面を有する一定長さのチューブであって、前記内腔を通る流体の流れに対する抵抗を高めるために、その内面に形成される特徴部を備えている吸引チューブを有していることを特徴とする装置。

【請求項 19】

前記自在に移動する物体は、羽根またはプロペラであることを特徴とする、請求項 18 に記載の装置。